

漢法苞徳塾資料	No. 255
区分	診断論・脈診
タイトル	病脈と平脈
著者	八木素萌
作成日	

◎「病脈」とは

『難経』の記述を整理すると次の通りになる。

- (1) 胃の気の脈が不足し、脈が和緩でない。
- (2) 中脈（浮・中・沈の中、呼吸の間、寸・関・尺の関）が不足し、季節の脈状に反する脈状である。
- (3) 数脈または遅脈である。但し、遅脈の場合はむしろ稀である。
- (4) 陰陽のバランス（尺・寸、浮・沈、脈状—陽状の脈＝浮・滑・長；陰状の脈＝沈・短・濇）が失われて不安定である。
- (5) 脈は、尺・寸、浮・沈、六部、脈状ともに不安定である。
- (6) 五臓を意味する脈状が、いずれの臓の脈であるかを判別し易いように偏って現われる。
- (7) 本位の脈長・四時の脈状・五臓の脈状に対して、大過や不及が見られる。
- (8) 五十拍以内に結滞する事がある。
- (9) 病症（色を代表とする声色臭味液～主に面色）の意味している所と脈状の意味する所との間に矛盾がある。相生的矛盾は予後良好であるが、相剋的であれば難治または不治である。

【註】

『難経』の三・四・六・九・十・十一・十三・十四・十五・十六・十七・十八・十九・二十・二十一・二十三・二十四・三十四・三十七・四十・四十八・四十九・五十二・五十八の諸難の記述を整理すると、病脈は上のようなものであると言える。

☆五臓の病脈

それぞれの臓の基本の脈状が際立って表われるのであり、その表われ方には、季節の脈と「主人と客」の関係において実現しているものである。五臓の五行性と季節の五行性との関係で捉えるのであり、「主人」は「五臓」であり、「客」は「季節」である。そして《「平脈」から偏っているもの・五臓脈の相互関係は平衡したものでなければならないのに平衡が失われているもの》が病脈であること。つまり、春には和緩な若々しい弦脈・夏には鈎脈が和やかな姿であり・秋には毛脈が他の脈よりもやや勝っており・冬にはやや石脈の傾向が見られる・と言うのが「平脈」なのである。さらには、これらの中に、体質的な皮膚色と体形の特徴が意味しているものに見あった脈状が内包されているものである。

## 〈心〉

平脈	累累如環 如循琅玕
実脈	来而益数 如鷄举足者
虚脈	
絶脈	前曲後居 如操帶鈎

## 〈肺〉

平脈	藹藹如車蓋 按之益大
実脈	不上不下 如循鷄羽
虚脈	
絶脈	按之蕭索 如風吹毛

## 〈脾〉

平脈	和柔相離 如雞踐地
実脈	実而盈数 如雞舉足
虚脈	
絶脈	鋭堅如鳥之喙 如鳥之距 如屋之漏 如水之流

## 〈肝〉

平脈	厭厭聶聶 如循榆葉
実脈	益実而滑 如循長竿
虚脈	
絶脈	急而勁益強 如新張弓弦

## 〈腎〉

平脈	上大下兌 濡滑如雀之喙
実脈	啄啄連属 其中微曲
虚脈	
絶脈	来如解索 去如彈石

心肺肝腎は『難経』15 難、脾は『素問』平人氣象論第 18 を参照